

## 第 11 回 HuMA 国際保健医療協力勉強会 in 福岡

テーマ：東日本大震災を振り返る～被災地の診療所からの視点～

講師：小倉健一郎（石巻市立雄勝診療所長・HuMA 会員）

開催日時：2012 年 3 月 17 日（土）18 時 30 分～20 時 30 分

開催場所：福岡県すこやか健康事業団 学術研究センター

参加費：1,000 円（一般） 500 円（学生）



3 月 17 日に第 11 回 HuMA 国際保健医療協力勉強会 in 福岡が、福岡市天神にある聖マリア病院関連施設・福岡県すこやか健康事業団学術研究センターで開催されました。

今回は、HuMA 会員で、現在宮城県石巻市雄勝町にある雄勝診療所で診療所長として被災地の方々の地域医療を担っている小倉健一郎先生に「東日本大震災を振り返る～被災地の診療所からの視点～」のタイトルで被災直後の支援活動から現在の診療所立ち上げ時の苦労話、診療開始 5 カ月経過した現在の現地医療の問題点、行政との関係などについてご講演頂きました。

今回の先生の旅費等は HuMA 理事で和白病院副院長の富岡譲二先生の計らいで、和白病院より御提供して頂きました。和白病院の皆さま、ありがとうございました。

小倉先生と同じ佐賀医科大学同窓生である富岡先生には、自作のパワーポイントと共に小倉先生のプロフィール紹介と司会進行をしていただきました。小倉先生はいつものソフトな語り口で現地の様子や診療風景や状況を講演しましたが、その内容に感動して涙を流していた参加者もいました。現地の方を励まそうとして支援する側が様々なイベントを企画したことが、時に被災者の方を疲れさせてしまったという事例があり、支援の在り方の難しさをあらためて感じました。非常に示唆に富んだ講義でしたが、小倉先生と富岡先生の息のあったユーモアあふれるやり取りで、会場は和やかな雰囲気に包まれていました。

講演のあとは、小倉先生のご提案で、参加者でグループを作りワークショップを行いました。質問は二つ、「被災者としてどうしたら雄勝町の復興がすすめられるか？」という被災者の立場になって考えることと、「遠い町（福岡）からどのようにして被災者の支援がで

きるか？」と支援する立場らの考える、というものでした。今回の参加者は43名で、医療従事者以外にも学生や一般の方々などワークショップは初めてという方もいましたが、皆熱心に議論され、様々な意見やアイデアを出していました。その中で、個々でなにか支援するだけでなく、“雄勝クラブ”という組織を作り、雄勝の人々の声を聞きながら出来る支援を考えていこうという案に多くの方が賛同していました。そのためには、現地からの発信と、支援者側からの応答を取りまとめる事務局組織が必要であるとの意見もあがりました。

なお、今回参加して頂いた方からの参加費（個人的な寄付も含む）合計45,000円を雄勝診療所に寄付させていただきました。参加者の皆さま、ありがとうございました。

また、講演会会場で南三陸町の医療支援の記録をつづった「いのちを守る～東日本大震災・南三陸町における医療の記録」（へるす出版）の販売（収益の多くが南三陸町に寄付されます）を行い、予定していた20冊は完売し、不足分に関しては皆さま改めて御注文されとのことでした。

ご参加の皆さま本当にありがとうございました。今後とも勉強会を通して雄勝町をはじめ、東北の被災支援を行っていきたいと思います。